

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

| 分野 | 景気の先行き判断 | 業種・職種 | 景気の先行きに対する判断理由 |
|----------------|----------------|---------------|---|
| 家計 動向 関連 | 良くなる やや良くなる | 家電量販店（経営者） | ・地上デジタル放送移行期限前の買換え需要が見込まれる。 |
| | | 商店街（代表者） | ・東北新幹線の新青森駅開業に伴い、当地での誘致活動が活発化しており、春先、特にゴールデンウィーク期に観光関連のホテル、飲食店、お土産、レンタカーなどへの波及効果が見込まれる。 |
| | | 商店街（代表者） | ・3月に札幌駅前通の地下歩行空間が開通されるため、人の流れに若干の変化が生じ、当店周辺への人の流れが良くなることが期待される。 |
| | | 商店街（代表者） | ・最近の傾向から、ゴールデンウィーク後は周辺町村から中心市街地を訪れる来街者が増加するほか、道央圏からも、特に中国人や韓国人などの外国人を始めとした観光客の増加が見込まれるため、商店街全体としての販売量の増加が期待できる。 |
| | | 百貨店（売場主任） | ・長期予報によれば、3月以降はとて暖かくなるということで、前年が寒かったことの反動もあり、春物の動きが良くなることが期待できる。特に、羽織物、ジャケット・ニット、パンツ・ブラウス関連の動きが良くなるが見込まれる。 |
| | | スーパー（店長） | ・前年は、春先にかけて気温が非常に低かったことから、春に動く商品が不調だったが、今年は気温が高めて推移していることから、今後に向けて景気が段々と良くなることが期待される。 |
| | | スーパー（役員） | ・コーヒー・砂糖・食用油等の値上げ報道により、商品の動きが良くなっている。また、以前より高い価格でも商品が売れるようになってきており、一時の安さ勝負の状況から変わりつつある。 |
| | | 乗用車販売店（営業担当） | ・新商品の投入により、販売量が増加することが期待できる。 |
| | | 旅行代理店（従業員） | ・1月初めから2月半ばまで続いた来客数及び販売額の低調が、2月中旬からわずかに上向きつつあることから、今後についてはやや良くなる。 |
| | | タクシー運転手 | ・現在は客の乗込件数や注文件数は変わらないが、今後については、東北新幹線の効果などで観光客が増えることが見込まれるため、やや良くなる。 |
| 変わらない | | 一般小売店〔酒〕（経営者） | ・毎月のことだが一進一退の状況を繰り返しているため、2～3か月後も今までの基調とほとんど変化がないとみられる。 |
| | | 百貨店（売場主任） | ・食品の減少幅は小さいものの、衣料品は婦人服の前年比95%を始めとして前年をクリアできない状況にあることから、今後も変わらない。 |
| | | 百貨店（販売促進担当） | ・客単価の低下を補うだけの来客数の増加や買上率の上昇を見込めないため、今後も変わらない。 |
| | | スーパー（店長） | ・高速道路の無料化社会実験の影響を受けて、来客数の増加がみられるようになっており、6月まではその恩恵が続く。 |
| | | スーパー（企画担当） | ・客の購買行動として、調味料やカップ麺などの長期保存が可能な食品のセール時のまとめ買い傾向が、今まで以上に強まっている。食料品の値上げが見込まれるなかで、今後も価格訴求が強まることになる。 |
| | | コンビニ（エリア担当） | ・客単価の動きなどに大きな変化が感じられない。格別に支出を抑制したり、増加させたりしていない状態が続いているため、今後も変わらない。 |
| | | コンビニ（エリア担当） | ・たばこの値上げ効果が継続するため、売上の流れも大きくは変わらない。ただし、たばこ分を除くと前年を下回っており、実態は決して良くない。競合店出店の動きもあり、楽観できない状況にある。 |
| | | コンビニ（エリア担当） | ・来客数の動きをみると、底は打っている感じは受けるが、アルコールや雑誌の売上が大きく減少するなど、消費抑制の傾向が強いため、今後も変わらない。 |
| | | 衣料品専門店（店長） | ・景気が上向きになるような兆しが全くみられない。 |
| | | 家電量販店（店員） | ・3月にもう一度、エコポイントの駆け込み需要が発生することが期待できる。 |
| | | 高級レストラン（スタッフ） | ・4月以降の明るい話題が少なく、先が見えない。特に地方の飲食店は、食料品の原材料の値上げで大きな影響を受けることになる。 |
| | | 旅行代理店（従業員） | ・海外情勢の不安や国内の政治不信に加えて、統一地方選挙の影響が懸念される。 |
| | | タクシー運転手 | ・電話注文や来客数の増える要素が思い当たらない。 |
| | | 通信会社（企画担当） | ・春商戦を迎えて、販売量の増加が期待できるが、一方で、競合他社との割引合戦での体力消耗が懸念される。 |

| | | | |
|--------|-----------------------|---|---|
| | 観光名所（役員） | ・国内景気も盛り上がりならず、海外も円高が続いている状況であるため、先行きについては前年並みの入込客の確保も厳しいことが見込まれる。 | |
| | 美容室（経営者） | ・今後、明るい話題や何か大きな刺激剤が出てこない限りは現状のまま推移する。 | |
| | 設計事務所（所長） | ・客の慎重姿勢が崩れるような要因が見当たらない。 | |
| | 住宅販売会社（経営者） | ・国内の政局や海外の状況が落ち着くまで、まだしばらく時間がかかるため、今後も客のマインドは変わらないまま推移する。 | |
| | 住宅販売会社（従業員） | ・分譲マンションの資料請求の件数が多く、今後もモデルルームへの来場数が極端に減る可能性は小さい。したがって、数か月先までであれば、ある程度の売上を確保できる。しかしながら、販売価格の下落は続いており、分譲マンション事業全体では依然として苦しい状況である。 | |
| やや悪くなる | 一般小売店〔土産〕（経営者） | ・今の北海道の人達はあまりの雪の多さに追われ、買物や旅行ムードではなく、むしろテレビを見る時間が多くなっている。そのため、テレビで報道されるアフリカや中東の騒動に伴う原油の値上がりとその影響を受けての経済の落ち込みが懸念される。 | |
| | 百貨店（販売促進担当） | ・原油価格の高騰によるガソリンや灯油価格の上昇は、冬に暖房費がかさむことや車社会である北海道にとって直接家計に響く大きな問題となる。今後、さらに価格が上昇すれば、家計費の圧迫に伴い、その他の消費への影響は避けられない。 | |
| | スーパー（店長） | ・政権政党の混乱、またリビア等の中東情勢の影響を受けての原油高、それに伴う各国のインフレ懸念など、このような状況のなかで明るい見通しが立たない。 | |
| | スーパー（役員） | ・顧客の買物動向は、まとめ買いから都度必要な物を買うという動向に変化している。平均年収も下がる一方であり、今後良くなる材料は今のところない。 | |
| | その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者） | ・中東情勢の不安定化に伴う原油価格の高騰により、石油製品の高値安定が見込まれるため、今後の大幅な需要減少につながる。 | |
| | 高級レストラン（スタッフ） | ・中東情勢の影響でガソリンや灯油が値上がり傾向にあるため、外食の機会を控えることが見込まれる。 | |
| | 観光型ホテル（スタッフ） | ・需要を喚起するようなイベント、大会がない。また、経費削減トレンドによるビジネス客の利用の減少が見込まれるほか、統一地方選挙の影響で観光客も停滞傾向となることが見込まれる。 | |
| | 旅行代理店（従業員） | ・円相場の動向次第で海外旅行需要に影響が出ることになる。業務性旅行についても経費節減の折、伸び悩み状態にある。宿泊については、インターネット販売の勢いが衰えない。これらのことから、今後についてはやや悪くなる。 | |
| | 旅行代理店（従業員） | ・先行受注状況を見ると、3月は国内旅行が前年比107.0%、海外旅行が前年比108.1%となっているが、4月は国内旅行が前年比98.9%、海外旅行が前年比83.2%と落ち込んでいるため、今後についてはやや悪くなる。 | |
| | タクシー運転手 | ・今年は統一地方選挙が4月に行われるが、今までの経験から、選挙の年は景気が悪くなる状況がみられるため、今後についてはやや悪くなる。 | |
| 悪くなる | 家電量販店（地区統括部長） | ・今の状況下では、3月に家電エコポイント制度が終了するため、急激な売上の落ち込みが懸念される。 | |
| | タクシー運転手 | ・例年雪のある3月までは、タクシーの利用はまずまずであるが、4月以降は利用客が大きく減少する。さらに、今年は統一地方選挙があるため、4月以降の利用客の減少と売上の減少が懸念される。 | |
| 企業動向関連 | 良くなる | - | |
| | やや良くなる | 建設業（経営者） | ・今後は補正予算やゼロ国債で受注した工事が動き始める。また、5月には新年度予算の発注も始まるため、国会の混乱が気になるものの、マインド面は好転する。建築についても、融雪後の工事が着工されるため、人、物、金の動きが出始める。 |
| | | 建設業（従業員） | ・春先に着工予定の医療関連施設や高齢者施設の新築工事の見積の引き合いが多く、工事業者によっては対応に手が回らないところが出ている。 |
| | 変わらない | 食料品製造業（役員） | ・長期的にみて、現在以上に売上が伸びるような要因がまだ見えてきていない。 |
| | 輸送業（支店長） | ・今は冬場ということもあり、一番悪い時期にある。3月になれば多少荷動きもみられるようになるが、極端に大きな変化はないと見込まれる。 | |

| | | |
|----------|-------------------------|--|
| | 金融業（企画担当） | ・補正予算による公共工事の増加が見込まれる。観光関連は外国人観光客が下支えする。しかし、雇用・所得環境に改善がみられず、ガソリンなど石油製品価格の上昇懸念もあることから、個人消費は弱含みで推移する。総じて景気は横ばいで推移する。 |
| | 司法書士 | ・今後において明るい材料が見当たらないため、現状のまま推移していく。 |
| | その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長） | ・国会での予算成立の見通しが不鮮明であることに加えて、統一地方選挙を控えることから、企業の設備投資意欲は低いとみられる。 |
| | その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員） | ・ようやく設備投資の案件が聞こえるようになった。決定までには時間と手間がかかるが、4月からの新年度を迎えるに当たって、今後の動きが期待できる。 |
| やや悪くなる | 出版・印刷・同関連産業（従業員） | ・良くなる材料が見当たらない。 |
| | 金属製品製造業（経営者） | ・中東諸国の情勢の不安定化により、石油価格が上昇することなどが懸念される。 |
| | 輸送業（営業担当） | ・4月以降、船運賃の燃料費調整係数が1ランクアップするが、得意先への価格転嫁が難しい。また、本州向け農産物の出荷が減少しており、今年の収穫が行われる秋まではこの状況が続く。 |
| | 通信業（営業担当） | ・3か月前と比較すると、現状の業績等の数値比較からやや回復傾向にあるが、エコポイント制度の期限終了や先々の増税感など、現在の状況が続くとは思えない要因が多いため、2～3か月後の景況感は今よりはやや悪くなる。 |
| | 司法書士 | ・統一地方選挙などがあり、選挙結果で国政も大きく動くため、景気回復の諸政策を実行することができるかどうかの瀬戸際となる。極端な場合では、衆議院の解散問題も浮上しかねない状況にあるため、これから先の景気が回復するとは考えにくい。 |
| 悪くなる | その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者） | ・新年度当初の受注が激減しそうな状況にある。 |
| 雇用 関連 | 良くなる | - |
| | やや良くなる | 求人情報誌製作会社（編集者） ・札幌中心部の求人件数に勢いが出始めており、この地域を中心とした先行的指標となる飲食業や小売業などのサービスの今後の動向に明るさが見えてきた。 |
| | 変わらない | 人材派遣会社（社員） ・年度替わりで求人数は増えるが、離職者も増えるため、全体としては今後も変わらない。 求人情報誌製作会社（編集者） ・求人広告受理件数に若干の伸びがみられるが、業種や業界によりばらつきがあり、まだら模様であるため、今後も変わらない。 新聞社〔求人広告〕（担当者） ・特別な不安要素もないため、ここ最近の上向き傾向が維持される。 職業安定所（職員） ・景気回復が緩やかながらも感じられるが、中東情勢の緊迫化による原油価格の上昇など、景気の下振れの懸念材料が出ている。 職業安定所（職員） ・今月の新規求人数の動きをみても、管内求人の変化はみられないことから、今後も変わらない。 学校〔大学〕（就職担当） ・雇用環境に特化することではないが、北海道において景気が上向いていると感じるような企業の動きがみられず、そうした情報も伝わってこないまま新たな年度を迎えることが懸念される。今後は3月末日まで未内定の卒業生を対象に個別対応に傾注することになるが、肝心の求人票の受理数が限られ、指導に苦慮していることから、当面は現状のまま推移する。 |
| | やや悪くなる | 人材派遣会社（社員） ・新卒者の未就職者が失業市場に大量に流れ込むことになるため、ただでさえ有効求人倍率が低いなかで、就業への競争が激しくなり、中高年及び女性の求職者にとって厳しい時期を迎えることになる。 |
| | 悪くなる | - |